

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-177398

(43)Date of publication of application : 14.07.1995

(51)Int.Cl.

H04N 5/225
G03B 13/02

(21)Application number : 05-320040 (71)Applicant : SONY CORP

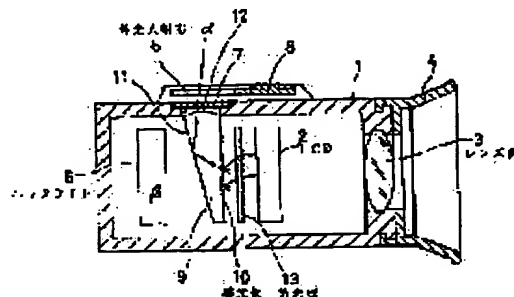
(22)Date of filing : 20.12.1993 (72)Inventor : UEDA TOSHIKI
UENO KATSUHIKO
ONO YOSHIHIRO
KOYAMA NORIO

(54) VIEW FINDER FOR VIDEO CAMERA

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a view finder for a video camera capable of brightly watching a video on a liquid crystal panel in a color video near natural colors in any circumstance/condition indoors and outdoors.

CONSTITUTION: A condensing plate 13 is arranged on the back of LCD 2, a light guiding plate 9 is arranged on the back of the condensing plate 13 and a back light 5 is arranged on the back of the light guiding plate 9. The light guiding plate 9 is provided with a diffusion surface 10 on the side facing the condensing plate 13, a reflecting surface 11 on the side facing a back light 5, a converging surface 12 corresponding to light from outside light incident window 6 formed in a view finder lens barrel 1 and a cover 8 capable of opening and closing the light from outside light incident window 6 on its top.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 17.07.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-177398

(43) 公開日 平成7年(1995)7月14日

(51) Int.Cl.⁶

H 0 4 N 5/225

G 0 3 B 13/02

識別記号

B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平5-320040
(22) 出願日 平成5年(1993)12月20日

(71) 出願人 000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川6丁目7番35号
(72) 発明者 上田 俊明
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内
(72) 発明者 上野 克彦
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内
(72) 発明者 小野 佳弘
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内
(74) 代理人 弁理士 松隈 秀盛

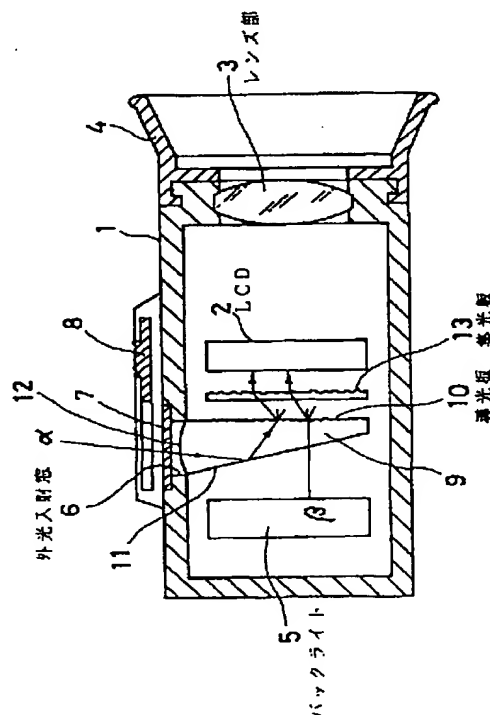
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ビデオカメラのビューファインダ装置

(57) 【要約】

【目的】 屋内外のあらゆる環境条件であっても液晶パネルに映る映像を自然色に近いカラー画像で明るく見ることのできるビデオカメラのビューファインダ装置を得る。

【構成】 LCD 2 の裏面側に集光板 13 と、この集光板 13 の裏面側に導光板 9 と、導光板 9 の裏面側にバックライト 5 を配置し、導光板 9 は集光板 13 との対面側に拡散面 10 を有し、バックライト 5 との対面側に反射面 11 を有し、導光板 9 の上端部はビューファインダ鏡筒 1 に形成した外光入射窓 6 に対応する集光面 12 を有し、かつ外光入射窓 6 を開閉可能な蓋体 8 を設けた。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 レンズ及び絞り等の撮像光学系を通して入射した被写体像の光（映像）を CCD 撮像素子により電気信号に変換し、この電気信号をカメラ信号処理部及びビデオ信号処理部により映像信号として取り出し、この映像信号を液晶板駆動手段を介して表示素子としての液晶板に表示するようにしたビデオカメラのビューファインダ装置において、

上記液晶板を裏面から照射する照射手段としてバックライトと外光入射窓とを有し、上記照射手段を環境光強度の検出出力に応じて選択的に利用することを特徴とするビデオカメラのビューファインダ装置。

【請求項 2】 上記環境光強度の検出を撮像光学系の絞りの状態を示す信号の検出によって行うことを特徴とする請求項 2 記載のビデオカメラのビューファインダ装置。

【請求項 3】 上記環境光強度の検出を上記 CCD 撮像素子から得られる映像信号のホワイトバランス情報信号の検出によって行うことを特徴とする請求項 1 記載のビデオカメラのビューファインダ装置。

【請求項 4】 上記バックライトあるいは外光入射窓からの光を上記液晶板の裏面に案内する導光板を有することを特徴とする請求項 1 記載のビデオカメラのビューファインダ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、例えばカメラ一体型 VTR 等に使用されて好適なビデオカメラのビューファインダ装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術とその問題点】 従来、この種、ビデオカメラのビューファインダ装置にカラー液晶装置を使用したものにおいて、カラー液晶装置の液晶パネルの背後にはバックライトが配置され、このバックライトからの光で液晶パネル表面に映る映像を明るく見えるようにしている。しかし、日差しの強い日にビデオカメラで屋外撮影する場合、バックライトの光量は太陽光に比べて極めて少ないため液晶パネル表面に映る映像が極端に暗く感じられるといった問題があった。

【0003】 本発明は、上述したような問題点を解消するためになされたもので、屋内外のあらゆる条件であっても液晶パネルに映る映像を自然色に近いカラーで、しかも明るい映像として見ることでできるビデオカメラのビューファインダ装置を得ることを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上述の目的を達成するため、本発明によるビデオカメラのビューファインダ装置は、レンズ及び絞り等の撮像光学系 21 を通して入射した被写体像の光（映像）を CCD 撮像素子 23 により電気信号に変換し、この電気信号をカメラ信号処理部 24

及びビデオ信号処理部 25 により映像信号として取り出し、この映像信号を液晶板駆動手段 26 を介して表示素子としての液晶板 2 に表示するようにしたビデオカメラのビューファインダ装置において、液晶板 2 を裏面から照射する照射手段としてバックライト 5 と外光入射窓 6 とを有し、照射手段を環境光強度の検出出力に応じて選択的に利用するようにしたものである。

【0005】 また、本発明の好ましい実施例によるビデオカメラのビューファインダ装置は、環境光強度の検出を撮像光学系の絞り 22 の状態を示す信号の検出によって行うようにしたものである。

【0006】 また、本発明の好ましい実施例によるビデオカメラのビューファインダ装置は、環境光強度の検出を CCD 撮像素子 23 から得られる映像信号のホワイトバランス情報信号の検出によって行うようにしたものである。

【0007】 さらに本発明の好ましい実施例によるビデオカメラのビューファインダ装置は、バックライト 5 あるいは外光入射窓 6 からの光を液晶板 2 の裏面に案内する導光板 9 を有するようにしたものである。

【0008】

【作用】 上述したように構成した本発明のビデオカメラのビューファインダ装置は、液晶板 2 を裏面から照射する照射手段としてバックライト 5 と外光入射窓 6 とを備えたので、ビデオカメラの使用環境光度が比較的に暗い場合はバックライト 5 による液晶板 2 の照射を行い、使用環境光度が明るい場合は外光入射窓 6 からの外光を利用して液晶板 2 を照射するようにしたものである。

【0009】

【実施例】 以下、本発明の実施例をビデオカメラのカラービューファインダ装置を例にとつて図面を参照して説明する。図 1 は本例のカラービューファインダ装置の基本的な構成を示す。符号 1 はファインダ鏡筒を示し、2 は表示素子としての液晶板（以下、LCD という）、3 はこの LCD 2 の表面側前方（接眼部 4 側）に配置された接眼レンズである。LCD 2 の裏面側後方には一定の距離を置いて LCD 2 を裏面から照射するためのバックライト 5 が配置されている。

【0010】 LCD 2 とバックライト 5 の間のファインダ鏡筒 1 の上部部分には外光入射窓 6 が形成されており、この外光入射窓 6 には色温度変換フィルター 7 が配置されている。また、外光入射窓 6 はファインダ鏡筒 1 にスライド可能に設けた蓋体 8 により開閉できるようになっている。

【0011】 一方、上述した LCD 2 とバックライト 5 との間には導光板 9 が配置されている。導光板 9 は LCD 2 の裏面と対面する側が垂直面からなる拡散面 10 に形成され、バックライト 5 の前面と対面する側が傾斜状の反射面 11 に形成され、さらに導光板 9 の上部は外光入射窓 6 に臨み凸面状の集光面 12 に形成されている。

また、LCD 2と導光板 9との間には集光板 13が配置されている。

【0012】これをさらに詳しく説明すると、拡散面 10は例えばシボ面（エッチング面）や反射パターンが印刷され、光がこの拡散面 10に照射されたとき明るい面光源ができるようになっている。

【0013】反射面 11は集光面 12から導光板 9内に入射した光に対しては反射して拡散面 10側に導光され、バックライト 5からの光に対してはそのまま透過して拡散面 10側に導光される。

【0014】このように構成した本発明によるビューファインダ装置は、蓋体 8を開放することで外光入射窓 6から外光がファインダ鏡筒 1内へ入射しLCD 2を裏面から照射することができることと、従来から一般的に行われているバックライト 5の光源によりLCD 2をその裏面から照射することができるものである。

【0015】すなわち、外光 α が外光入射窓 6から入射すると、外光 α は導光板 9の集光面 12より該導光板 9内へ入射し、反射面 11を反射して拡散面 10に導光され拡散される。拡散面 10から出射した拡散光は集光板 13により集光されて透過しLCD 2の裏面を照射することができる。

【0016】また、バックライト 5からの光 β は導光板 9の反射面 11をそのまま直進透過して導光板 9内を導光し、拡散面 10で拡散される。そして、拡散面 10から出射した拡散光は集光板 13により集光されて透過しLCD 2の裏面を照射することができる。

【0017】このように本発明のビューファインダ装置は外光を利用してLCD 2を照射する手段と、従来からのバックライト 5を利用してLCD 2を照射する手段とを備えたことにより、例えば日差しの強い日にビデオカメラによる屋外撮影するときは、外光入射窓 6から外光を採り入れてLCD 2を照射することで、LCD 2の表面に映る映像を環境照度に対応した明るさで違和感なく見ることができる。また、曇りの日や屋内のように環境照度のあまり明るくない状態で撮影するときは、蓋体 8により外光入射窓 6を閉止し、バックライト 5の光源によりLCD 2を照射し見るようにする。従って、本発明のビューファインダ装置はあらゆる環境条件において、その環境照度に対応した明るさでLCD 2の表示画面を効果的に見ることができる。

【0018】ところで、外光とバックライト 5による光は色温度（波長）が異なるため、外光とバックライト光とを同時にまたは切り換え式に使用するときは、LCD 2の映像色を自然に近づけるために、外光入射窓 6に色温度切換フィルター 7を設けたことによってある程度補正することができる。

【0019】また、外光とバックライト光とは上述したように色温度が異なるため、あらゆる撮影状況において自然色に近い色のLCDを得ようとする場合には、外光

とバックライト光の光量に応じて表示される色を補正（いわゆるホワイトバランス調整）する必要がある。また、省エネルギー対策として外光量を検知することで、バックライト光量や外光量を変化させれば便利である。

【0020】ここで、上述した色補正及び採光を自動的に行うための制御ブロック回路を図2に示す。

【0021】ビデオカメラ本体部のレンズ部 21を通して入射した被写体像の光（映像）はアイリス（絞り） 22を経てCCD撮像素子 23により電気信号に変換される。この電気信号はカメラ信号処理部 24及びビデオ信号処理部 25によりそれぞれ信号処理され、ビデオ信号処理部 25から出力されたホワイトバランスされたカラー映像信号がビューファインダ側のRGBデコーダ 26により色補正（ホワイトバランス調整）され、LCD 2で映像表示される。

【0022】また、カメラ信号処理部 24からの情報はカメラコントロール部 27に入力され、カメラコントロール部 27からの信号出力に応じてカメラ信号処理部 24が制御される。環境光強度を検出する外光センサ 28からの信号はカメラコントロール部 27よりアイリスドライバ 29を駆動してアイリス 22を環境光強度に応じた絞り量に制御される。また、外光センサ 28からの信号によりカメラコントロール部 27はRGBデコーダ 26の色補正を調整制御すると共に、インバータ 30を介してバックライト 5の光量をコントロールすると同時に、外光入射窓 6の開閉量をコントロールできるようになっている。

【0023】従って、上述したような制御ブロックにおいて、自動採光操作を行う場合はアイリス 22、RGBデコーダ 26によるホワイトバランスあるいは外光センサ 28等の情報から判断してバックライト 5の光量調整及び外光入射窓 6の開閉量を制御することができる。

【0024】また、自動色補正を行う場合は外光入射窓 6の開閉量及びバックライト 5の光量によってRGBデコーダ 26による色補正をコントロールしてLCD 2のホワイトバランスを最適化することができる。

【0025】尚、屋内で外光を採り入れるような状況においては、外光及びバックライト 5の光量に応じて色補正してもLCD 2の色が異なって見える場合がある。この場合は蓋体 8で外光入射窓 6を閉止すれば従来のビューファインダと同じ使い勝手にして使用すればよい。

【0026】また、蓋体 8の開放時は外光採り入れ専用モードとし、蓋体 8の閉止時はバックライト専用モードにして色設定できるようにしておけば、2段階のみの調整で完全ではないにしてもある程度色補正が可能である。

【0027】また、蓋体 8のスライドに連動して両モードの切換えスイッチを設けたり、蓋体 8に連動するバックライトのON、OFFスイッチを設けることも可能である。この場合は色温度変換フィルター 8は無くてもよ

い。

【0028】本発明のビューファインダ装置は上述した実施例に限定するものでなく種々の変形実施例が可能であり、以下、いくつかの変形実施例を図3～7を参照して説明する。各実施例において図1に示した構成と同一部分には同一符号を付して重複する説明は省略する。

【0029】〔変形実施例1〕図3はLCD2の裏面に集光板30と、この集光板30の裏面に拡散板31をそれぞれ重合状態に配置している。外光入射窓6には透明（半透明）部材32（あるいは集光レンズ）を設けてある。そして、外光入射窓6と対応する位置で、拡散板31の裏面側後方には一定の距離を置いて45°に傾斜する角度でバックライト33が配置されている。バックライト33の前面には反射面34を有する。このバックライト33はその下端部に設けた支点軸35を回動支点として起立回動可能である。バックライト33の回動手段は手動または電動のいずれの場合であってもよい。

【0030】このように構成した実施例では外光を利用してLCD2を照射するには、予めバックライト33を傾斜位置にさせておく。すなわち、外光入射窓6の透明（半透明）部材32を透過した外光はバックライト33の前面の反射板34に反射して拡散板31に入射する。そして、この入射光は拡散板31により拡散され集光板30により集光された光となってLCD2の裏面を照射する。

【0031】一方、バックライト33の光源を利用してLCD2を照射するには、バックライト33を仮想線で示すように起立状態に回動させる。これによって、バックライト33の光源が反射板34を透過し拡散板31及び集光板30を通してLCD2を照射することができる。尚、この際、外光入射窓6からの外光はバックライト33の裏面で遮断されLCD2側には入射することはない。

【0032】〔変形実施例2〕図4はLCD2の裏面に集光板41を配置し、この集光板41の裏面側に導光板42が配置されている。導光板42は集光板41と対面する前面側が拡散面43を有し、その反対面は拡散反射面44となっている。また、導光板42の上端面はファインダ鏡筒1外に露出する集光面45に形成され、導光板42の下端面側にバックライト46が配置されている。

【0033】このように構成した実施例では外光を利用してLCD2を照射するには、導光板42の集光面45から入射した外光が、導光板42内を導光し拡散反射面44で反射して拡散面43で拡散される。拡散面43から出射した拡散光は集光板41により集光された光となってLCD2の裏面を照射する。

【0034】バックライト46の光源を利用してLCD2を照射するには、導光板42の下端面から入射したバックライト46の光源は、導光板42内を導光し拡散反

射面44で反射して拡散面43で拡散される。拡散面43から出射した拡散光は集光板41により集光された光となってLCD2の裏面を照射する。

【0035】〔変形実施例3〕図5はLCD2の裏面に集光板51が配置され、この集光板51の裏面側後方に45°の傾斜角度で反射ミラー52を設けてある。反射ミラー52の上方には導光板53が配置され、導光板53の上部のビューファインダ鏡筒1部分に透明（半透明）部材54（あるいは集光レンズ）を設けた外光入射窓55がある。導光板53はその下面の水平面に拡散面56を有し、上面の傾斜面は拡散反射面57になっている。また、導光板53の端面側にバックライト58を設けている。また、導光板53は手動または電動で外光入射窓55から退避する位置に水平に移動可能である。

【0036】このように構成した実施例では外光を利用してLCD2を照射するには、外光入射窓55の透明（半透明）部材54を透過した外光は導光板53の傾斜する上面の拡散反射面57をそのまま直進透過して導光板53内を導光し下面の拡散面56で拡散される。拡散面56を出射した拡散光は反射ミラー52で直角に反射され集光板51で集光された光によってLCD2を照射する。

【0037】バックライト58の光源を利用してLCD2を照射するには、導光板53の端面から入射したバックライト58の光源は、導光板53内を導光し拡散反射面57で反射し拡散面56で拡散される。拡散面56を出射した拡散光は反射ミラー52で直角に反射され集光板51で集光された光によってLCD2を照射する。

尚、導光板53を外光入射窓55から退避させることにより、透明（半透明）部材54を透過した外光を直接反射ミラー52で反射させ、集光板51を通してLCD2を照射させることができる。このようにすることにより、多くの外光を採り入れることができるためLCD2を一層明るく照射できる。

【0038】〔変形実施例4〕図6はLCD2の裏面に集光板61と、この集光板61の裏面に拡散板62をそれぞれ重合状態に配置している。外光入射窓63には透明（半透明）部材64（あるいは集光レンズ）を設けてある。そして、外光入射窓63と対応する位置で、拡散板62の裏面側後方には一定の距離を置いて45°の傾斜角度でバックライト65が配置されている。バックライト65の前面には反射ミラー66を有する。このバックライト65は反射ミラー66を拡散板62側とは反対側にして該拡散板62に近接するように起立回動可能である。このバックライト65の回動手段は手動または電動のいずれの場合であってもよい。

【0039】このように構成した実施例では外光を利用してLCD2を照射するには、予めバックライト65を傾斜位置にさせておく。外光入射窓63の透明（半透明）部材64を透過した外光はバックライト65の前面

の反射ミラー 66 に反射して拡散板 62 に入射する。この入射光は拡散板 62 により拡散され集光板 61 により集光された光となって LCD 2 の裏面を照射する。

【0040】一方、バックライト 65 の光源を利用して LCD 2 を照射するには、バックライト 65 を仮想線で示す位置に回転させる。これによって、バックライト 65 の光源で拡散板 62 及び集光板 61 を通して LCD 2 が照射される。尚、この場合、外光入射窓 63 から外光が入射したとしてもバックライト 65 の反射ミラー 66 で反射遮断され LCD 2 側には入射することはない。

【0041】また、反射ミラー 66 の代わりにバックライト 65 に仮想線で示すようにプリズム 67 を設け、外光をこのプリズム 67 によって反射させ LCD 2 を照射させるようにしてもよい。

【0042】〔変形実施例 5〕図 7 は LCD 2 の裏面に集光板 71 と、この集光板 71 の裏面に拡散板 72 とが重合状態で配置されている。外光入射窓 73 には透明（半透明）部材 74（あるいは集光レンズ）を設けてある。そして、外光入射窓 73 と対応する位置で、拡散板 72 の裏面側後方には一定の距離を置いて 45° の傾斜角度で反射ミラー 75 が配置されている。反射ミラー 75 はその上部一端部に設けた支点軸 76 を回転支点として上方に回転可能である。そして、反射ミラー 75 の後方にバックライト 77 が配置されている。

【0043】このように構成した実施例では外光を利用して LCD 2 を照射するには、外光入射窓 73 の透明（半透明）部材 74 を透過した外光は反射ミラー 75 を直角に反射して拡散板 72 に入射する。そして、この入射光は拡散板 72 により拡散され集光板 71 により集光された光となって LCD 2 の裏面を照射する。

【0044】バックライト 77 の光源を利用して LCD 2 を照射するには、反射ミラー 75 を仮想線で示すように上方に回転させる。これによって、バックライト 77 の光源で拡散板 72 及び集光板 71 を通して LCD 2 が照射される。尚、この際、外光入射窓 73 からの外光は反射ミラー 75 で反射遮断され LCD 2 側には入射することはない。

【0045】尚、いずれの変形実施例の場合でも図示していないが外光入射窓を開閉するための蓋体は備えてあるが、この蓋体は必ずしもなくてもよい。

【0046】また、外光入射窓に透明（半透明）部材あるいは集光レンズを設けてある場合は、入射光路の途中に拡散面または拡散板を必要とする。また、外光入射窓に拡散板が設けられている場合は、入射光路の途中に拡散面または拡散板はなくてもよい。

【0047】また、各変形実施例も図 1 に示した実施例の場合と同様に環境光強度に応じて外光入射窓とバックライトとを同時にあるいは選択的に切換えて LCD を最適な明るさの状態で見れるようにできることは言うまでもない。

【0048】本発明は、上述しかつ図面に示した各実施例に限定されるものでなく、その要旨を逸脱しない範囲内で種々の変形実施が可能である。

【0049】例えば、上述した各実施例では外光入射窓をビューファインダ鏡筒 1 の上部に形成した場合について説明したが、ビューファインダ鏡筒の側面にも形成することであってもよい。

【0050】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によるビデオカメラのビューファインダ装置は、液晶板を裏面から照射する照射手段としてバックライトと外光入射窓とを有し、照射手段を環境光強度の検出出力に応じて選択的に利用するようにしたので、あらゆる環境条件において、その環境照度に対応した明るさで液晶板の表示画面を効果的に見ることができるという効果がある。

【0051】また、バックライトの ON、OFF の切換えを行えるようにすることで、省エネルギーが可能となりバッテリーの高寿命化が図れる。

【0052】また、液晶板の色補正を自動で行えるようにしたことで、あらゆる環境条件において自然色に近いカラー液晶表示ができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本例のビューファインダ装置の基本構造の概要図である。

【図 2】本例のビューファインダ装置のブロック回路図である。

【図 3】本例のビューファインダ装置の変形実施例 1 の概要図である。

【図 4】本例のビューファインダ装置の変形実施例 2 の概要図である。

【図 5】本例のビューファインダ装置の変形実施例 3 の概要図である。

【図 6】本例のビューファインダ装置の変形実施例 4 の概要図である。

【図 7】本例のビューファインダ装置の変形実施例 5 の概要図である。

【符号の説明】

1 ビューファインダ鏡筒

2 LCD

40 3 接眼レンズ

5 バックライト

6 外光入射窓

7 色温度変換フィルタ

8 蓋体

9 導光板

10 拡散面

11 反射面

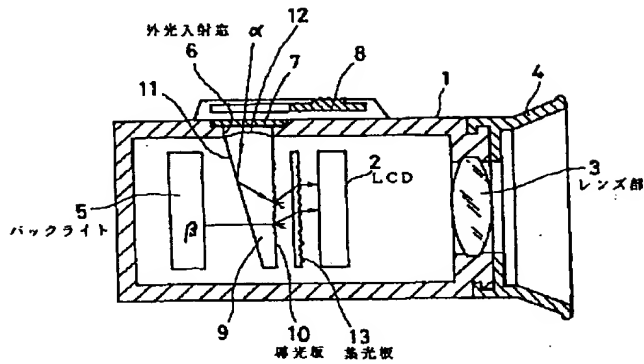
13 集光板

21 レンズ部

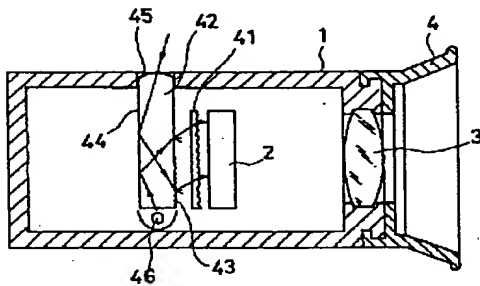
50 22 アイリス

- 23 CCD撮像素子
 24 カメラ信号処理部
 25 ビデオ信号処理部
 26 RGBデコーダ
 27 カメラコントロール部
 28 外光センサ
 30, 41, 51, 61, 71 集光板

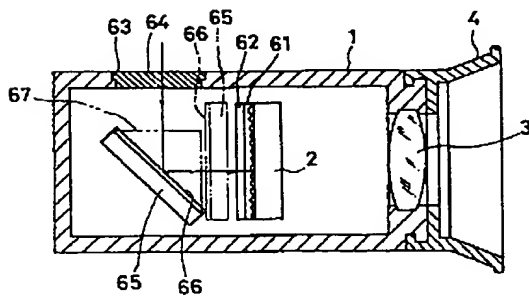
【図1】



【図4】

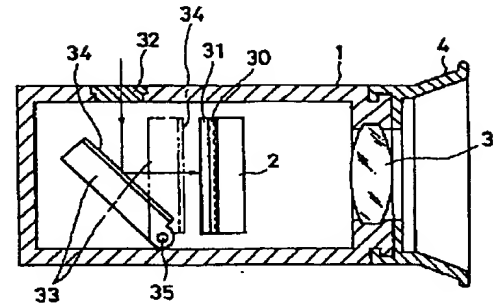


【図6】

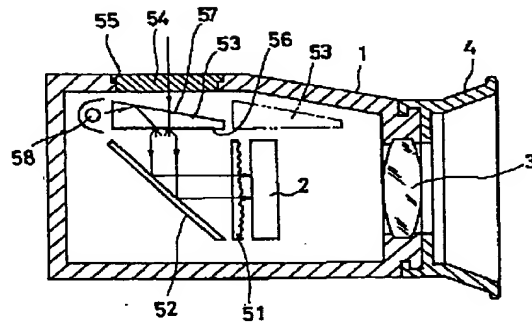


- 31, 62, 72 拡散板
 32, 54, 64, 74 透明(半透明)部材
 33, 46, 58, 65, 76 バックライト
 42, 53 導光板
 44, 56 拡散面
 52, 66, 75 反射ミラー
 55, 63, 73 外光入射窓

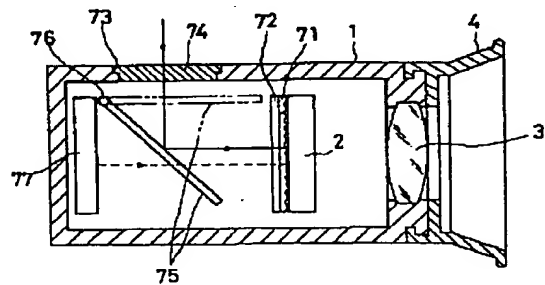
【図3】



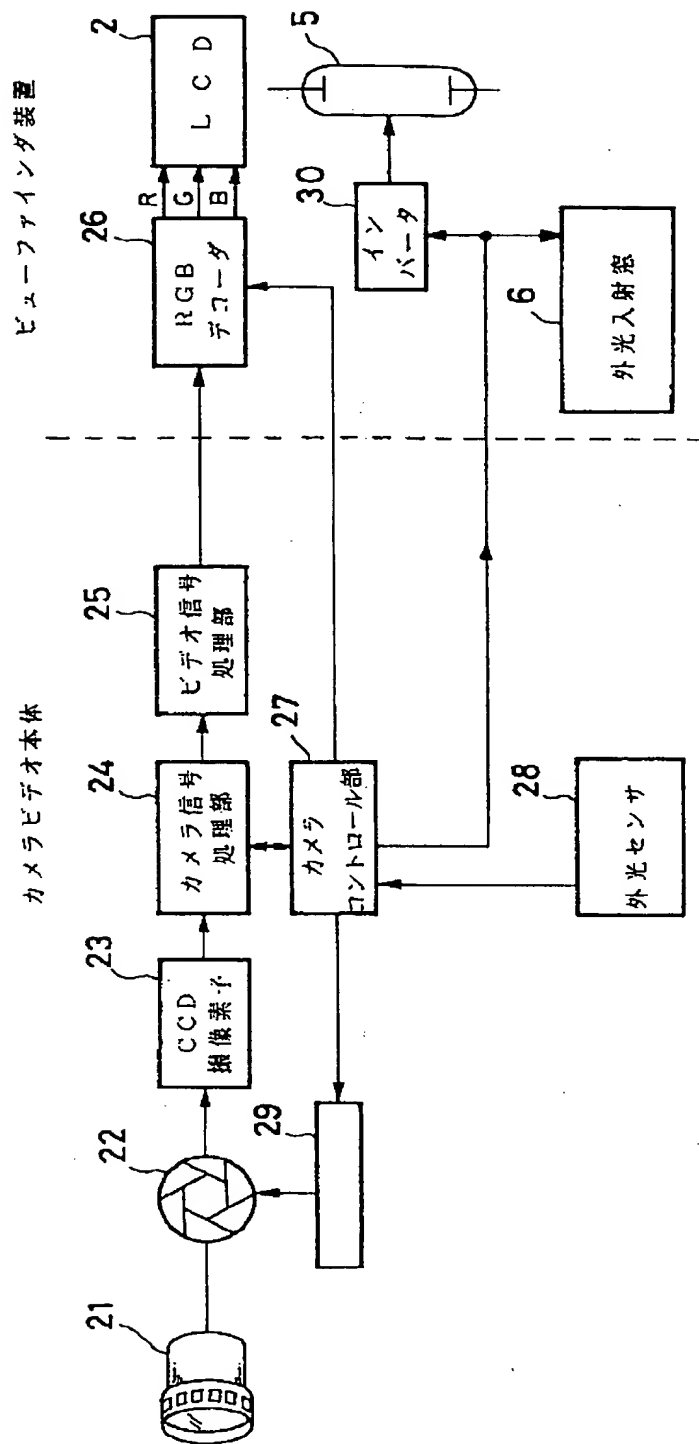
【図5】



【図7】



【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 小山 紀男

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 35 号 ソニ

ー株式会社内